2025 年 10 月 1 日

株式会社第一興商
日揮ホールディングス株式会社
株式会社レボインターナショナル
合同会社 SAFFAIRE SKY ENERGY

国産 SAF 製造に向け、カラオケボックスで発生する廃食用油の供給に関する基本合意書を締結

第一興商が本日より「Fry to Fly Project」に参加

株式会社第一興商（以下、第一興商）、日揮ホールディングス株式会社（以下、日揮 HD）、株式会社レボインターナショナル（以下、レボインターナショナル）および合同会社 SAFFAIRE SKY ENERGY（以下、サファイア・スカイ・エナジー）の 4 社は、第一興商が運営するカラオケ・飲食店で発生する使用済み食用油（以下、廃食用油）を国産の持続可能な航空燃料 SAF（Sustainable Aviation Fuel）の原料として継続的に供給することを目的とした基本合意書を 2025 年 10 月 1 日に締結します。

また、第一興商は本日、日揮 HD が提唱・事務局を務め、廃食用油を原料とする SAF で航空機が飛ぶ世界を実現するプロジェクト「Fry to Fly Project」に本日より参加します。

第一興商は、カラオケボックスに加え、およそ 27 業態で展開する個性豊かな飲食店舗を運営しており、全国においてグループ全体で 700 店以上の店舗数を有しています。これまで店舗で発生した廃食用油の多くは、家畜用飼料やハンドソープ、バイオディーゼル燃料など、多様な用途に再利用してきました。

今回の基本合意を受け、まずは第一興商直営のビッグエコー224 店および飲食店 143 店において、廃食用油を SAF の原料として順次提供していきます。さらに、グループ会社が運営する店舗でも順次対応を進めていきます。

国内資源循環による脱炭素社会の実現を目指す同プロジェクトへの参加により、第一興商単独での取り組みを越える大規模な脱炭素社会実現に向けた活動が可能となります。カラオケボックスで発生する廃食用油が国産 SAF の原料として使用されることが国内初の取り組みであることを受け、第一興商は廃食用油の供給に留まらず、同プロジェクトを通じた発信を積極的にしていきます。こうした試みがカラオケボックス業界全体に広がり、国産 SAF の普及や地球環境保全に向けた資源循環の促進につながることを期待します。

■今回の基本合意による各社の役割

◇第一興商

カラオケ・飲食店舗で発生する廃食用油を、SAF の原料としてレボインターナショナルに引き渡します。

◇レボインターナショナル

回収した廃食用油をサファイア・スカイ・エナジーが運営する SAF 製造装置向けに引き渡します。

◇サファイア・スカイ・エナジー

日本初となる国産 SAF の大規模生産プラントにおいて、レボインターナショナルから引き取った廃食用油を原料とした SAF の製造を行います。

◇日揮 HD

廃食用油を原料とする SAF の製造プロジェクトを主導します。

第一興商、日揮 HD、レボインターナショナルおよびサファイア・スカイ・エナジーの 4 社は、今回の基本合意を通じて、国産 SAF が安定供給され航空燃料として本格導入できる体制を整えていきます。

■「SAF（読み：サフ）」について

廃食用油などを原料とする航空燃料として、従来の航空燃料と比較し CO2 排出量を大幅に削減することが可能なエネルギーです。航空機は自動車などと違い、電気や水素などの燃料では代替しにくいことから、SAF の利用による CO2 排出削減が世界で求められています。

日本では、国土交通省が 2030 年時点で国内航空会社による燃料使用量の 10%を SAF に置き換える目標を掲げており、さらに 2050 年にはカーボンニュートラルにすることを目指しています。その実現に向け、国産 SAF の原料である廃食用油の安定的な調達が課題となっています。一方で、SAF の原料である廃食用油は、年間およそ 10 万トンが海外に輸出されているといわれており、輸送により CO2 が排出されるだけでなく、国産 SAF 製造のための貴重な原料流出につながっています。

■関連サイト：

日揮 HD オフィシャルサイト内 Fry to Fly Project ページ：
https://www.jgc.com/jp/esg-hsse/initiative/fry-to-fly/